

平成26年12月11日

## 議会運営委員会会議録

- 1 日 時 平成 26 年 12 月 11 日  
開会 14 時 40 分 閉会 15 時 00 分
- 2 場 所 幕別町役場 5 階会議室
- 3 出席者 委員長 牧野茂敏  
副委員長 中橋友子  
委員 寺林俊幸 藤原孟 谷口和弥 芳滝仁  
前川雅志  
議長 古川稔 副議長 千葉幹雄
- 4 傍聴者 東口隆弘 小島智恵 佐藤記者(勝毎)
- 5 職務のため出席した議会事務局職員  
局長 野坂正美 課長 萬谷司 係長 佐々木慎司
- 6 審査事件 (1) 付託議案の審査について  
陳情第 17 号 町議会議員の定数削減に関する陳情書  
(2) その他
- 7 審査内容 別紙のとおり

議会運営委員会委員長 牧野茂敏

(開会 14:40)

- 委員長(牧野茂敏) ただいまより議会運営委員会を開会いたします。本日の議案についてはお手元に配布のとおりであります。これより議事に入ります。本日の議題は陳情第17号 町議会議員の定数削減に関する陳情書の審査になります。今回で4回目の審査となるわけですが、今定例会の会期中に結論を出すということでありましたのでよろしくお願ひしたいと思います。

それでは最初に、各会派に私の方でお願いをしてありましたので、それぞれの会派からご意見を頂ければと思います。順番にいきますか。それでは政清会、寺林委員。

- 委員(寺林俊幸) わが政清会の中で、この議員定数削減について話し合った中では、この陳情の中でいくつか理解に苦しむところがあるという意見が多く出ていまして、その中の一つとして健全な財政運営のために議員定数を減らしていただきたいというような意見が盛り込まれているわけですが、今後少子化、住民の減少、高齢化による社会保障の増大というようなことを考えれば、当然健全な財政運営ということは理解できる場所でもありますけれども、そのことと議員定数を削減したこととのつながりといいますか、議員定数削減によって財政運営が健全化するのかというようなことが理解しがたいなというようなことを思うのと、またこれまで議員定数に対しての削減の陳情は改選後いくつか出ておまして、この議運でも議論した場所でもありますけれども、その結果現状維持、20名が妥当であろうとの結論を見ながらこれまで至っているわけで、その中この幕別の議会の中では大きな変化はなかったのではないかなというようなことを考えるわけで、この幕別町は管内でも唯一合併をし、これまで色々な形で議会改革を進めてきている中で、合併当時、議員定数を大幅に減らしながら、また最初の選挙の時には特別区を設けて選挙を行ったわけですが、前回の改選期にはそれも廃止し、幕別町全体での初めての選挙であったということでもありますとともに、まだ合併後10年を経過していないという中での議員定数の削減については、なかなか理解に苦しむ町民も少なくないのではないかな。この3極化した市街地を形成する幕別町において、住民の意見を広く集め町政に反映する、町民に対する思いに伝えるということに対しては、やはり20名程度の議員が必要ではないかなというようなことを考えながら、また議員一人に対する住民の数というものを考えますと、管内の状況を見ても決して少なくない。また同じ規模の道内の町などと比べてみても決して大差があるわけでない。

そういうことから考えますと、本年度から議会基本条例も制定し、議会改革に取り組んでいる中、これからも時代に沿った議会改革を進める中で、やはり20名程度の議員は必要ではないかなというような判断に至りまして、今回の陳情に対してはなかなか理解しづらいものがあるという結論に至りました。以上です。

- 委員長(牧野茂敏) それでは共産党、中橋委員。
- 委員(中橋友子) 考え方につきましては前回の議会運営委員会の時に出させていただいたことと変わりありません。ただいま寺林委員から意見がありました、大きく4項目については全く同意をするものであります。加えまして、議会の基本条例制定の時にも議運の中で議論しながら盛り込んだ中の一つの視点に、他の類似町村と、きちんとそういうことも勘案するとして上で、さらに地域の合議体として住民の意思を決定する機関として十分議論ができる体制、つまり定数ですね。そのことも勘案しなければだめなのということと、それから地域性。これは今のべられた中の、合併してきたということが含まれるのですが、地域性も考慮しなくてはならない。類似団体が減らしていくから、それももちろん検討はするのだけれども、大事な議会の役割を果たすうえでの必要な人

数というものを定めなければならないのだというような精神でもってそういった文言が加えられてきた経過もありました。

従いまして、そういう考え方に立てば、今の時点でこの陳情をよしとするとはなりえないということでもあります。

- 委員長（牧野茂敏） それでは拓政会。芳滝委員。
- 委員（芳滝仁） 私どもの会派では、最初から最後まで意見が分かれておりました。最終的にそのままの形で、それぞれ考えを持っているわけですから仕方がないということで、しかし会派としての考え方をまとめようということでそれぞれ了解を得ながらまとめさせていただきました。

個人的な考えはそれぞれあるのですけれども、会派としてこの20という定数については次の選挙の時に、この時期でありますからこのままで据え置こうと。これは附帯意見を付けて、このことは人口動態財政等踏まえたうえで、きちんと課題として残して議論してもらいたいということをつけてもらいたいと。中につきましても音更町とか芽室町だとかの議員定数の事もあって結構議論の中で18だという意見もあったのですけれども、忠類の住民の声が、減らしてもらっては困るという声が多いという意見もありまして、合併してまだ10年もたっていない状態で非常に不安を覚えると。だんだん忠類地域が人口も少なくなってきましたので、そういったことも心配をしていらっしゃる原因なのではないかということで、会派の中でそういう意見がある以上、会派として減らすという結論を出すことができないということでありました。

日本の今の政治の状況を考えました時に、どこも地方が減らしているのですよね。国政が減らしていない。全く削減ということの議論をしないで今回の選挙なのですけれども、どんどん地方の財政がひっ迫していく、人口減になっていく、仕方なし減らしていくということがあるのだけれども、ますますそういう面で、ある意味では多様な意見が反映されなくてどんどん地方の行政が力を失っていくということに今なりつつあるのではないかと。やはりそのへんは逆に多様性を求めていくということがまちづくりにも非常に大事なことではないかという意見も出まして。

まとまらない中で拓政としては、今回は20のままに、削減をしないという結論に達したところです。以上です。

- 委員長（牧野茂敏） それでは政風クラブ、前川委員。
- 委員（前川雅志） 陳情の文章でありました、財政改善に向けてということの、コストありきで定数議論はできないのだろうということは変わりありません。会派の中でも色々と議論させていただきました。

議員定数が、何人が適正であるかということについても色々と話をさせていただきましたが、適正な人数、議員数が、客観的な根拠でもって何人でなくてはならないという答えをみいだすことができませんでした。ということは、20人であるという根拠も見つけることができないという相談の中身となりました。

今の期も前の期も、たまたま二人の方が不幸にも亡くなって、長いあいだ18人で町議会を開催させていただいておりました。その時の中に色々な予算決算、一般質問、審議において何も問題があったとも思いませんし、充分議論をしてきたと思っております。ということは、18人でも幕別町議会は十分な審議ができるのではないかとということで色々と相談をさせていただいたところでもあります。

それと最近におきましては情報公開やインターネットの普及などによって、議員が必要とする情報を、少し前までは時間をかけてそろえる必要もあったのですが、今は瞬時

にそろえることもできる、そういう時代に入ってきております。それと議員一人ひとりの活動の中で、多くの町民にお会いして、どういった町における課題があるか、そういったことも必要なのだと思います。そういったことで多くの町民の方と最近お会いさせてもらったのですが、一人も現状維持がいいと言った方がいませんでした。全員の方が、まだ削減しないの。といった話だったということもありまして、削減に向けて18人でも十分にできるのではないかと会派では考えたところであります。

それと、定数の削減につきましては、議員自らにとっても自分の立場を厳しいところに身を置くのだということだと思っております。そういう環境に身を置くことによってこれまで以上に議員活動を精力的に頑張ることによって、まだまだ町民の考えや気持ちをくみ取っていくことができるのではないかと思いますし、そういったことによって町民との信頼関係を築いていくことが大切なのではないかということでもあります。

よって、わが会派は、中身は色々ありますが、趣旨については賛同させていただきたいということでもあります。

- 委員長（牧野茂敏） それでは緑政会、藤原委員。
- 委員（藤原孟） 結論から言います。この削減に対し、2名削減すべきという意見をわたくしたちは会派としてまとめました。

前回につづきまして、陳情に対し、削減をしてよいのではないかと。特に行政側が、長年わが町多くの負債を抱えて、その手助けとなる。これは議員二人を削減したからいかなる効果があるかと言われますけれども、わたくしとしては微力のことではありますが行政に対し賛同し、また職員も削減、それから給料も削減というなかで頑張った、そのことをわたくし議員としてともに歩みを進めたいということでもあります。

それ以外、さまざまな理由はありますが結論を先ほど申したように削減2名、それを賛成ということで会派の意見といたしたいと思っております、以上です。

- 委員長（牧野茂敏） ただいま5会派から、それぞれ会派の討論の結果についての報告をいただいたわけでありましてけれども、これを踏まえて議運としてのご意見を出し合うということをやらなくてよろしいですか。それぞれまだご意見があれば。

それぞれ会派として今お話しいただいたことが全てだと思うのですけれども、谷口委員はお話していないわけでありましてけれども、何かお話があれば。谷口委員。

- 委員（谷口和弥） わたくしは日本共産党会派でありますから、今、方向性については会派長がここでのべられたとおりであります。

町民の皆さん方と色々お話する中では、私は、これからのべる点で誤解があるなという思いであります。誤解というのは、議員が町民の代表であるということが、あまり浸透していないという言い方はおかしいですけれども、そういう仕事をする特別な人だということになっていないかということです。特に国政などがそうだと思うのです。その延長線の中で、議員の数を減らすということが、町民の多様な意見をのべる口数を減らすということに私はなるのだと思うのだけれども、その点についてなかなか、繰り返しになりますけれども、国政の議員のあり方がそういうことにつながっていないのではないかと考えているのです。

これも繰り返しになりますけれども、多様な意見をのべるということの中で、人口27000を超えるこの町で何人が必要かということの中では、町民全員が参加できることが一番なのだけれども、代表制である以上、一定の数が必要で、今の定数20というのはそれでも少ないのではないかと思うくらいの数。ですから、定数削減については異を唱えるものであります。以上です。

- 委員長（牧野茂敏） ほかにご意見ありませんか。  
（なしの声あり）
- 委員長（牧野茂敏） なければ討論に入りたいと思いますが討論はありますか。  
（なしの声あり）
- 委員長（牧野茂敏） それでは討論を省略してただちに採決に。議会運営委員会は委員の意見を一本にしてということが謳われているわけなのですが、これは陳情案件でありますので、それぞれ意見がわかれるのはいたしかたないのではと判断いたします。それでは採決させていただいてよろしいですか。  
（よいの声あり）
- 委員長（牧野茂敏） それでは採決に入ります。陳情第17号について、採択することに賛成の方の起立を求めます。  
（賛成者起立）
- 委員長（牧野茂敏） ありがとうございます。起立少数であります。従って本件は不採択とすることに決定いたしました。以上で陳情第17号についての審査は終了いたします。なお、さきほど芳滝委員から附帯意見というお話がありましたが、これについては。前川委員。
- 委員（前川雅志） わかる気もするのですが、我々がすべて残って、来年も再来年も議員として活動するのであればそういうこともあると思うのですが、来年改選ですので、またそこは新たな方々での議論になると思いますけれどもいかがでしょうか。
- 委員長（牧野茂敏） そのような意見ですけれどもそれでよろしいでしょうか。  
（よいの声あり）
- 委員長（牧野茂敏） それでは以上で終了させていただきたいと思いますがそのほかに何かありませんか。それでは議会運営委員会を終了させていただきます。  
（15：00 閉会）